

上越妙高駅における平日の利用動向調査の結果について

1 調査目的

上越妙高駅への停車機会拡大に向け、これまで時宜を捉えて駅の乗降者数を調査してきている中で、「平日における利用者の増」が課題として見えてきた。そこで、今年度、上越地域振興局と市が連携して、上越妙高駅の利用動向を調査したものの。

2 調査概要

実施内容：(1) 乗降者数調査（改札を通る新幹線乗降者を目視で確認）

(2) 乗降者に対するアンケート調査（3つの時間帯で新幹線の利用目的や乗車客の来訪先、降車客の居住地などを聞き取り）

実施期間：1回目 平成29年7月24日（月）～28日（金）の5日間（実施主体：上越市）

2回目 平成29年11月6日（月）～10日（金）の5日間（実施主体：上越地域振興局）

対象列車：①朝の臨時列車2便

上り 596号(6:36発)・598号(7:38発)

②午前6時～10時に走行するはくたか（定期列車）

上り 552号(7:16着 7:17発)・554号(8:26着 8:27発)・556号(9:26着 9:27発)

下り 591号(6:34着 6:35発)・551号(8:30着 8:31発)・553号(9:54着 9:58発)

③午後2時30分～6時に走行するはくたか（定期列車）

上り 566号(14:58着 14:59発)・568号(15:52着 15:53発)・570号(17:12着 17:13発)

下り 565号(15:16着 15:17発)・567号(16:16着 16:17発)・569号(17:19着 17:20発)

ねらい：①朝の臨時列車2便

・長野駅でかがやきに乗り換えるユーザーのための臨時列車。当駅からのかがやきへの乗継需要を把握するもの。

②午前6時～10時に走行するはくたか（定期列車）

・午前中において乗車客の多い時間帯の列車であり、周辺市も含めた地域住民の利用形態（どこへ向かうのか）を把握するもの。

③午後2時30分～6時に走行するはくたか（定期列車）

・午後において乗車客の多い時間帯の列車であり、県外から上越地域に来訪された方の利用形態（どちらへ帰るのか）を把握するもの。

調査場所：上越妙高駅 自由通路

3 調査結果（概要）

(1) 乗降者数調査

○調査期間中における乗降者数

- ・1回目（平成29年7月24日（月）～28日（金）の5日間）
5日間の合計人数 約17,700人（1日当たり 平均 約3,500人）
5日間のうち、最も人数が多かった日 7月28日（金）約4,100人（最少7月27日（木）約3,000人）

日にち	乗車			降車			合計
	上り (東京方面へ)	下り (金沢方面へ)	計	上り (金沢方面から)	下り (東京方面から)	計	
7月24日(月)	1,267	598	1,865	715	1,041	1,756	3,621
7月25日(火)	1,075	708	1,783	507	1,261	1,768	3,551
7月26日(水)	1,085	660	1,745	586	1,045	1,631	3,376
7月27日(木)	1,012	468	1,480	658	879	1,537	3,017
7月28日(金)	1,381	730	2,111	734	1,295	2,029	4,140
合計	5,820	3,164	8,984	3,200	5,521	8,721	17,705
平均	1,164	632	1,797	640	1,104	1,744	3,541

- ・2回目（平成29年11月6日（月）～10日（金）の5日間）
5日間の合計人数 約18,900人（1日当たり 平均 約3,800人）
5日間のうち、最も人数が多かった日 11月9日（木）約4,100人（最少11月7日（火）約3,300人）

日にち	乗車			降車			合計
	上り (東京方面へ)	下り (金沢方面へ)	計	上り (金沢方面から)	下り (東京方面から)	計	
11月6日(月)	1,098	699	1,797	803	1,195	1,998	3,795
11月7日(火)	985	811	1,796	616	890	1,506	3,302
11月8日(水)	1,121	851	1,972	733	930	1,663	3,635
11月9日(木)	1,110	792	1,902	1,015	1,229	2,244	4,146
11月10日(金)	1,350	837	2,187	739	1,143	1,882	4,069
合計	5,664	3,990	9,654	3,906	5,387	9,293	18,947
平均	1,133	798	1,931	781	1,077	1,859	3,789

(2) 乗降者に対するアンケート調査

○アンケート回答者数

- 1回目 乗車 647人、降車 310人 計 957人
- 2回目 乗車 660人、降車 273人 計 933人

○2回のアンケートを通じてみえてきた特徴

- ・1回目と2回目の調査を相対比較したところ、2回目の調査において、県内在住者の観光目的での利用が若干増加したものの、全般的には大きな違いはみられなかった。
- ・1回目、2回目ともにみられた特徴として、上越妙高駅はビジネスを目的とした利用者が多く、首都圏との交流が最も多い状況が確認できた。一方で、関西方面との流動においては午後の時間帯に観光目的での利用が高くなることが確認され、ビジネス利用が大半を占める東京方面との違いがみられた。
- ・このほか、長野や富山方面を中心に、通勤・通学での利用もみられ、県境を越えた日常的な交流が生まれてきていることが確認された。

○2 回の調査から考えられる今後の取組の方向性

平日の利用増加を図るには、次の取組が有効と考えられる。

【コンベンションの誘致】

平日のメインユーザーはビジネス客であることがわかったため、これらの方の利用を更に増やしていくことが必要と考えられる。そのためには、北信越地域の中心に位置しているという地理的優位性をビジネスチャンスと捉え、官・民それぞれが北信越地域におけるコンベンションを様々な業種で誘致するなど、北信越地域を結ぶ新幹線を活かした取組を進めていくことが大切であると考えられる。

【通勤・通学の時間帯にターゲットを置いた利便性の向上】

朝の時間帯において、上越市内、長野県、富山県の在住者を中心に通勤・通学の利用がみられ、県境を越えた日常的な交流が双方向で生まれてきていることが確認できた。こうした動きを拡大させていくためには、通勤・通学の時間帯における利便性の向上が必要であり、「あさま」や「つるぎ」の延伸といった通勤・通学圏域にある主要駅とのアクセス利便性の向上や、えちごトキめき鉄道をはじめとした地域内の二次交通の充実を継続的に鉄道事業者へ働きかけていくことが大切である。

【上越妙高駅周辺における団体旅行者受入機能の強化】

上越妙高駅は、関西方面から北関東、東北を目指す団体旅行の乗換拠点としての需要が高く、今後、上越妙高駅周辺における商業施設等の整備が進むことで、復路時において新幹線乗車までの時間を有効に使えるようになることから、旅行会社がツアーを組みやすくなることが予想される。

こうしたまちなみ形成の進展と併せ、観光バスが利用しやすい駅機能を整備することで、更なる団体旅行での利用需要が高まることが期待される。

4 アンケート調査結果の詳細

別紙のとおり